

令和6年度 小川晶保育ゼミ通信 ～前編～

R6.7.23 和光市 保育センター発行

小川晶先生と学ぶ

「和光市保育の質のガイドライン」

～子どもの健やかな育ちのために～



和光市では、保育の質の維持向上を目的とし、令和6年4月に「保育の質のガイドライン」を策定しました。今年度の保育ゼミでは、本ガイドラインの監修者である植草学園大学教授の小川晶先生に、ガイドラインの内容や活用方法についてご講演をいただいています。市内各保育施設の特色や魅力を活かしつつ、子どもの人権を尊重した保育が実践できるよう、本ガイドラインを基に全5回の保育ゼミで学びを深めていきます！



「和光市保育の質のガイドライン」 ココに注目！！



保育所保育指針、和光市保育課程に基づいた内容になっています。

年齢ごとの保育内容や事例が記載されていて、日々の保育に活用できます。

子どもからの視点を重視した「子どもの願い・子どもの思い」が記載されています。

「子どもの人権」の項目があり、人権を尊重した保育について振り返りができます。



和光市保育の質のガイドラインの掲載 HP はこちらから！

第2回までの保育ゼミで学んだこと

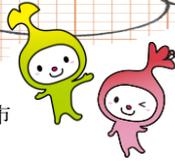
- 和光市保育の質のガイドラインについて（趣旨など）
- 子どもの権利について
- 0歳児～3歳児の保育



本ガイドラインをテキストとして使用しながら学んでいます！

第2回までの保育ゼミで、受講した先生方が学んだことやそれぞれの保育施設で実践していることをご紹介します！

©和光市



本書の「子どもの願い・子どもの思い」の記載については、具体的な声として響いてきたので、分かりやすかったです。子どもの権利については、頭では理解しているつもりだが、日頃の保育でどこまで個人を尊重することが出来ていたか、自分の言動を見直すきっかけをいただきました。ジェンダーバイアス等、事例を通して詳しく教えていただけてよかったです。

(和光市ほんちょう保育園 C先生)

ガイドラインに記載されていること以外の考え方や深め方を聞くことができ、他の先生たちと一緒に学びを深めていきたいと思いました。子どもたちが「自分で決めていい」と当たり前と感じ保障されるように、保育に携わる私たちがどんな価値観を持っているか、それが子どもの権利を侵害していないか点検することの重要性を感じました。

(わこうっちリトルスター保育園 K先生)

園全体で研修内容を共有した後、クラス内でも子どもの権利について話し合いをしました。ガイドラインを共有し、今まで無意識に行ってしまっていたことを改めて見直し、保育士同士で声をかけ合い良い保育を行っていこうと意識を高めることができました。

(しらこ保育園 S先生)

保育している中で小川先生が話されている場面がうかびました。自分は、そして他の保育士はどう対応しているか、声かけしているのか、これからの保育の向き合い方、他の保育士への声かけのしかたなど考えていこうと思います。

(里仁育舎 W先生)

事例から自分の保育を見直すことができ、困っていることについてのヒントや関わり方の例を得ることができた。全5回の研修で、自分の保育観や価値観を見直しながら子どもとの関わり方を考えていきたいと感じた。

(下新倉プライムスター保育園 K先生)

子どもの権利について、事例を介して話し合った。

1歳児においては、0歳からの進級児と新入园児とでアセスメントを変えていくというのは、保育の中では自然と行っていたが、指導案等できちんと落とし込むことで、どの職員(担任以外)とも、支援方法を統一しやすくなったと感じた。

(和光第2エンゼル保育室 S先生)